

第4章 基本方針と実施計画

1. 基本方針

前章までの課題や現況を踏まえ、本市では実り豊かな生活文化都市の実現のために観光施策の基本方針及び実施施策を以下のように定めました。

	基本方針	実施施策
1	中央市の強みを活かした観光資源の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源の活用と新たな観光資源の開発</li> <li>○市民向け観光コースの設定</li> <li>○山の神千本桜の保全</li> <li>○農産物加工品の開発</li> <li>○本市独自のブランド制度を活用した特産品の高付加価値化</li> </ul>
2	魅力ある観光拠点づくりと整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既存観光施設の整備</li> <li>○リニア開通に向けた環境整備の検討</li> <li>○観光客の受け入れ態勢の強化</li> </ul>
3	時代に即した取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○HP、ECサイトの強化</li> <li>○マイクロツーリズムの推進</li> <li>○たいら山トレッキングコースの活用</li> <li>○旅行会社などへの情報提供や営業の強化</li> <li>○他地域との相互交流の活性化</li> <li>○市内主要観光施設の情報共有の場の創出</li> </ul>

## 2. 実施計画

### 基本方針1「中央市の強みを活かした観光資源の充実」

中央市の歴史文化や特産品、地域伝統芸能の伝承などを取り入れた地域資源の掘り起こしを行い、観光資源化を進め、充実させていきます。官民一体となった市民力による地域活性化を促進し、地域住民も楽しめるように取り組んでいきます。また、交通インフラが充実している強みを活かした施策を展開していきます。

#### ○地域資源の活用と新たな観光資源の開発

地域に眠っている資源を精査し、新たな観光資源として昇華させていきます。また、既存の地域資源だけでなく、地域のニーズ等を踏まえ、新たな観光資源も開発していきます。

#### ○市民向け観光コースの設定

観光客をおもてなすためには市民に地元を愛してもらわないと成り立ちません。市民向けに手軽に楽しめる観光プランを提案し、地域住民同士の交流を促進させます。

#### ○山の神千本桜の保全

山の神千本桜について、今後も市の観光資源として活用していくために桜の木の保全等に取り組めます。

#### ○農産物加工品の開発

スイートコーンやトマトをはじめ、本市には農産物で多くの特産品があります。収穫時期だけのPRだけでなく、通年特産品を味わえるように道の駅とよとみや、た・から農産物直売所と連携して加工品等の開発に取り組めます。

#### ○本市独自のブランド制度を活用した特産品の高付加価値化

本市の特産品をよりPRしていくために、ブランド制度を設け、商品の高付加価値化を進めていきます。

## 基本方針2「魅力ある観光拠点づくりと整備」

現在、本市にある観光施設は老朽化が進んでいることや、他市町村の類似施設の進化により、魅力も半減してしまっています。時代に即すだけでなく、今後も見据えた新たな価値を付与していくことで、資源として埋もれてしまっている現状の打破と観光客を呼び戻すきっかけを作ります。

### ○既存観光施設の整備

集客の見込める既存観光施設の整備・維持を計画的に行います。また、周辺の類似施設を調査し、高付加価値化、差別化を図ることでより一層の集客を目指します。

### ○リニア開通に向けた環境整備の検討

リニア中央新幹線の開通を視野に入れ、開通によるメリットを最大限享受できるように関係各所と連携して事業を検討していきます。

### ○観光客の受け入れ態勢の強化

商工会と連携して、おもてなしのノウハウを市内の事業者へ共有したり、定期的な勉強会を開催したりするなど、観光客の受け入れ態勢を整えます。

### 基本方針3 「時代に即した取り組みの推進」

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることで、人々の生活様式にも変化が生まれました。今後も時代の移り変わりとともに生活様式や観光のトレンドは変わっていくことが予想されます。その時々の変化に対応できるような取り組みを展開していきます。

#### ○HP、ECサイトの強化

本市に足を運ばなくても市の魅力に触れられるように中央市ホームページ内の観光情報を充実させるほか、ECサイトの構築・強化を市内観光施設と連携して進め、遠方からも本市の商品が購入できるような仕組み作りを進めます。

#### ○マイクロツーリズムの推進

コロナ禍において需要が高まっているマイクロツーリズムについて、本市から車で1～2時間圏内に住んでいる人をターゲットに中央市ならではの観光ルートやプランを設定し、PRしていきます。

#### ○たいら山トレッキングコースの活用

屋外のアクティビティの需要が高まっていることを踏まえ、たいら山トレッキングコースの活用を推進するために、トップシーズンに宣伝強化を図ります。また、周辺施設と協働しイベントの開催も検討します。

#### ○旅行会社などへの情報提供や営業の強化

観光拠点の受け入れ態勢を整え、旅行会社へ積極的に本市の魅力をPRすることで、パッケージツアーの開催を進め、誘客の多角化を図ります。

#### ○他地域との相互交流の活性化

現在、新潟県胎内市や静岡県牧之原市・御前崎市と行っているような相互交流を、より活発化するとともに、やまなし県央連携中枢都市圏構想(注3)の関係自治体が連携して取り組む、広域観光プロモーション、連携自治体ツーリズム、圏域周遊誘客イベントの開催・誘致などによる交流も積極的に進めていきます。

#### ○市内主要観光施設の情報共有の場の創出

主要観光施設において、日々変わる観光客のニーズに対応していくために、定期的な情報共有の場を作り、点ではなく面で受け入れ態勢を構築していきます。

(注3)やまなし県央連携中枢都市圏構想とは…相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市(甲府市)が近隣自治体(韮崎市、南アルプス市、甲斐市、笛吹市、北杜市、山梨

市、甲州市、中央市、昭和町) と連携し、お互いの強みを活かし、弱みを補完しあうこと  
によって、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的とする構想。

	第Ⅰ期 概ね2年以内に着手	第Ⅱ期 概ね4年以内に着手	第Ⅲ期 概ね8年以内に着手
中央市の強みを活かした観光資源の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域資源の活用</li> <li>・ 山の神千本桜の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民向け観光コースの設定</li> <li>・ 農産物加工品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市独自のブランド制度を活用した特産品の高付加価値化</li> <li>・ 新たな観光資源の開発</li> </ul>
魅力ある観光拠点づくりと整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存観光施設の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客の受け入れ態勢の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リニア開通に向けた整備</li> </ul>
時代に即した取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たいら山トレッキングコースの活用</li> <li>・ 旅行会社などへの情報提供や営業の強化</li> <li>・ 他地域との相互交流の活性化</li> <li>・ 市内主要観光施設の情報共有の場の創出</li> <li>・ HPの情報強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ECサイトの構築</li> <li>・ マイクロツーリズムの推進</li> </ul>	

### 3. 数値目標

本市観光振興を図るため本計画の進捗状況や成果を検証及び評価できるよう、計画期間内の目標値を次の4つに定めます。

1	指標	観光入込客数の増加 (根拠) 山梨県観光入込客統計調査
	目標値	約8%増 令和4年(推定) 518,000人 → 令和12年 560,000人
2	指標	市内における観光消費総額(県観光消費額単価×市観光入込客) (根拠) 山梨県観光入込客統計調査
	目標値	約8%増 令和3年 5,740百万円 → 令和12年 6,200百万円
3	指標	宿泊者数の増加 (根拠) 山梨県観光入込客数統計調査及び本市ヒアリング
	目標値	約30%増令和3年 1,995人 → 令和12年 2,600人
4	指標	月別観光入込客数の下限値(根拠) 山梨県観光入込客統計調査
	目標値	約8%増令和3年 25,510人 → 令和12年 27,600人